



誘拐防止教育は間違っている－1

千葉県でまた痛ましい誘拐殺人事件があり、その犯人が同じ地域で子どもに関わっていたことを知ってさらに大きなショックを感じます。

私は、20年以上前から日本の「誘拐防止法」は間違っていることを指摘してきました。それは、子どもに対して「変な人に付いていかないように」と教育していることです。最近の事件を振り返って見ても分かるように犯人は、決して「変な人や知らない人」ではありません。それどころか子どもに関わりがあり、いい人だったりしています。では、親としては、子どもに「どう誘拐防止教育をすればいいのか」と考えざるを得ません。

私は、2つの提案をしたいと思います。まず、子どもが親以外の人とどこかに行く場合、必ずお母さんに報告する習慣を付けることです。例えば、お父さんと出かける時も「お父さんとお散歩に行きます」、お母さんは「行ってらっしゃい」と必ず見送る。親しい友達に「おばちゃんと〇〇へ一緒に行こう」などと誘ってもらい、「うん」と付いてきたら「あら、お母さんに言わなくて良いの？」とたしなめてもらう。子どもが、「おばちゃんと一緒に行ってくる」と報告したら「偉い」と褒めてあげる。この繰り返しを何度か行い、親も子も報告、褒めるを繰り返すことを習慣化する。

2つ目の対策は次号に。 まっく代表 向井忠義